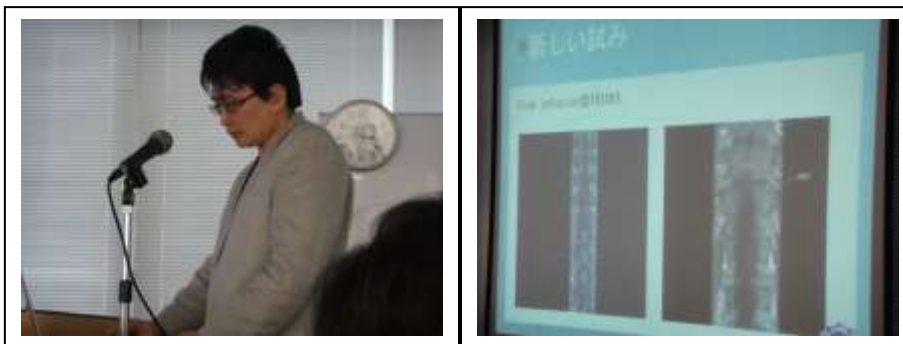


藤田大樹さんと久保浩一郎さんには「Gd 造影剤アップデート&分子イメージング薬の将来」と題してお話ししていただきました。昨今 NSF の話題が賑わっていましたが、造影剤には NSF 意外にも副作用があるので、それらを総合的に判断し造影剤を選んで欲しいということでした。また、GE ではアルツハイマー病を早期により確実に診断することができる可能性を持つ F-PiB と呼ばれる分子イメージング薬を開発しているそうです。もちろん分子イメージング薬だけではなく MRI などの機器を通してアルツハイマー病に対する solution を GE では今後も提供していくということでした。



公立昭和病院の前田朗さんには「描出困難な血管への挑戦～Adamkiewicz, 血管異常～」の再検討をしていただきました。周波数方向やスライス圧、マトリクスサイズ、ZIP についても独自に再検討されていました。しかし成功率が高くなかったので、現在では slow infusion 型 TRICKS を利用し検証しているそうです。



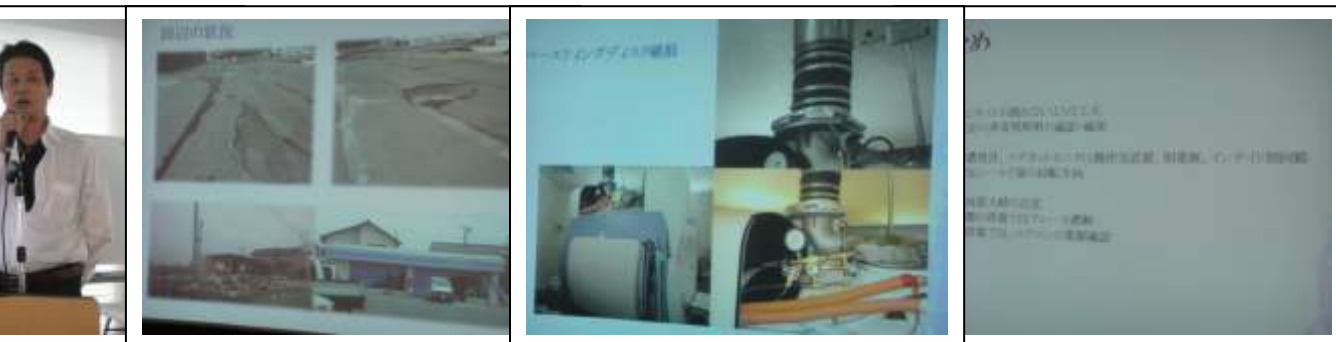
慶応大学の布川嘉信さんには「M4LAVA」to と題して昨年の Signa 甲子園東京 UM 予選で惜しくも敗れたネタをご発表していただきました。Multi-Station, Multi-Phase, Multi-Slab, Multi-Angle を利用するため「M4LAVA」と名付けたそうです。腎臓から膀胱までの広い範囲を dynamic する際に有用であるということでした。



東海大学大磯病院の上菌博史さんには「12ch(8ch)BODY Coil を用いた非造影下肢動脈 MRA」について再検討をしていただきました。SCIC よりも PURE を使用することで信号がかなり向上するが、Station 間のつながり目が目立ってしまうという印象を持ったそうです。また長時間の検査に耐えられないような患者さんには ASSET を併用することで SNR は下がるものの有用であるということでした。



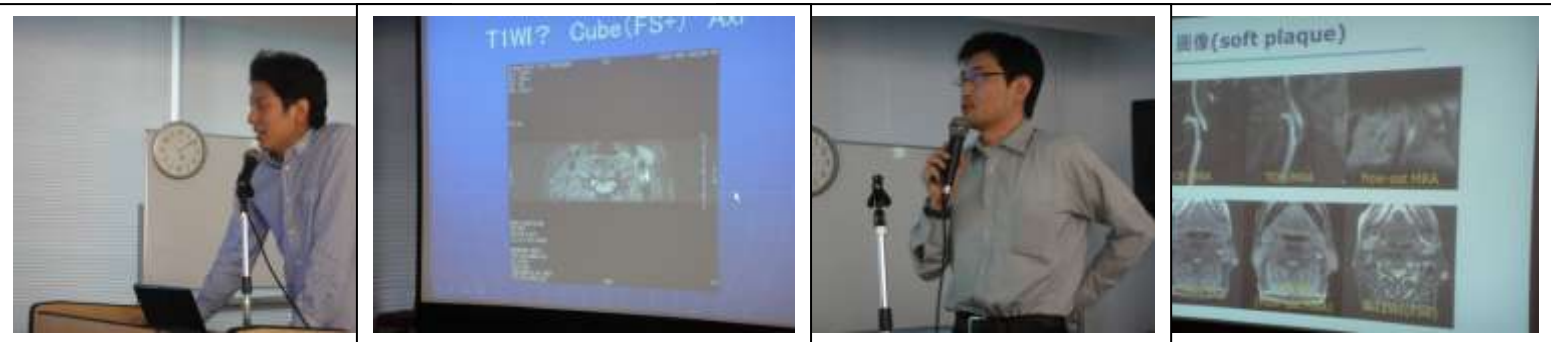
茨城 UMT の代表世話人でもられる臼庭等さんには特別講演として「震災が私に残したもの」と題し、講演していただきました。臼庭さんがお勤めされている北茨城市立総合病院様も液状化現象によりいたるところ浮いてしまっているそうです。また、MRI のダクトにアイスブロックができて最悪 MRI が爆発する可能性があるため、あえて冷凍機を落としてクエンチを起こしたそうです。そのため現在でも MRI は稼動しておらず新しく買い換えるしかないそうです。初代の Signa 甲子園チャンピオンである臼庭さんが MRI を使用できないというお話を聞いてこの度の震災が与えた影響の大きさを改めて実感いたしました。また実際に震災が起こり停電になった際に必要なもの、必要な行動を詳しく教えていただきました。そして実際に震災の被害者なった立場から、様々な勉強会などの自粛ムードの機運があったが、どんどん勉強会などを開催して、実際に復興ができた際の道しるべとなるような情報を提供して欲しいということでした。



GEHC-J の中村弘美さんには「pulse sequence 解説 拡散強調画像」と題して講演していただきました。初心者から上級者まで非常に分かりやすく丁寧に教えていただき、たいへん勉強になりました。



「頸動脈プラーク検査の各施設における検査方法・工夫」には慈恵第三病院の澁谷一敬さん、東大病院の渡辺靖さん、川崎幸病院の中 が発表いたしました。慈恵第三病院ではS社のMRIが優先的に用いられているのが現状であるため、対抗する手段としてCubeを利用してきたいということでした。また脂肪抑制を併用しないCUBEはNASCET法での狭窄率を求めるのに適しているということでした。渡辺さんはお腹の調子が悪いのを押しでご発表していただきました。HNS Coilを使用して頭部のスクリーニングもするそうです。ルーチンではflow-sat MRAを使用しているようですがoptionとしてCubeも使用することがあるそうです。川崎幸の中からは現在のルーチン撮像法の紹介をさせていただきました。



最後に「Signaの非造影MR Angiography」と題し北里大学の秦博文さんにご講演していただきました。GEの装置でもやっといういろいろなことができるようになってきたそうで、非造影MRAが大好きな秦さんはMRAのコレクションが増えるのが楽しみで仕方ないそうです。今回は特にDelta Flowについて多くの検討をしていただき、詳細にわたり教えていただきました。秦さんのこだわりは、まずとにかく血液（見たい血管）を高信号にすることで、動静脈分離は二の次であるということでした。多くの検討をしていただいた結果、造影CTAと比較しても遜色ない画像が得られるようになったそうです。



今回は世話人の不手際により、案内状ができあがるのが直前だったにもかかわらず 72 名の方が参加していただきました。また懇親会にも約半数の方がご出席していただいて、親交を深めていました。このような機会を与えていただいて GEHC-J の皆様方、および東京 UMT 代表の相澤則明さん、多摩 UMT 代表の鈴木晋さんに改めて感謝致します。

